

教育委員会の共同設置専門部会

(県教育委員会)

1 第41回専門部会の開催

(1) 会議の概要

(日時) 令和7年6月11日(水) 13時00分～14時15分
(会場) 静岡県下田総合庁舎 賀茂キャンパス
(議事) 今年度の予定、未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版(案)、
情報共有(賀茂地域教育振興方針に係る取組状況、部活動の合同実施等)

(2) 今年度の予定

今年度の専門部会における協議事項を説明した上で、夏休み期間中に開催予定の「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」の意見交換を行った。

【主な意見】

- ・自分の住んでいる町のことを再発見して、学校に戻って他の仲間に伝えていくという機会になっており、良い取組だと思う。
- ・時勢に合った講義も必要だが、参加者は毎年変わるので、以前の講師やフィールドワーク先が良ければ繰り返しになっても構わない。

(3) 部活動の合同実施(賀茂地域におけるモデル実施)

部活動の合同実施について、今後の方向性等の意見交換を行った。また、AI技術を活用した部活動指導アシストツールに関するセミナーの開催について案内した。

【主な意見】

- ・休日に活動する場合の送迎や、ユニホームをどうするかといった検討が必要である。
- ・合同部活動では、一旦活動を始めると解散ができない。
- ・子どもたちの自主性を育てる上でも、紹介されたAIスマートコーチは良いと思う。

2 第42回専門部会の開催

(1) 会議の概要

(日時) 令和7年11月7日(金) 10時00分～10時50分
(会場) 静岡県下田総合庁舎 賀茂キャンパス
(議事) 未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版の開催結果(報告)、
情報共有(賀茂地区県立高等学校におけるキャンパス制の導入)

(2) 賀茂地区県立高等学校におけるキャンパス制の導入

キャンパス制の導入について報告し、意見交換を実施した。

【主な意見】

- ・キャンパス制の導入は、どのような生徒を育てることを目的とするのか明確にすることが大切。
- ・高校の特色について、学校、県、町で協力して考えていかなければならない。

(参考) 令和7年度「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」実施内容

「賀茂の自然を未来につなげるために」をテーマに、7月30日に開催した。

(参加者：賀茂1市5町の中学1～2年生：33名)

区分	講師、内容
講義①	池上 重弘 (静岡県教育委員会教育長) ・「自然環境と私たち」
講義②	石川 憲一 (NPO 法人伊豆未来塾理事長) ・南伊豆地域の自然について
講義③	國村 大喜 (株式会社ウミゴー代表) ・漁業者と釣人が共存する、持続可能な釣りレジャーの実現
講義④	寺崎 竜雄 (静岡県立大学経営情報学部講師) ・身近なものに目を向けて その魅力を磨いてみよう！
講義⑤	御法川輝雄 (レストラン「MINORIKAWA」店主)
グループワーク	賀茂の自然の再発見

※講義④以降は、津波警報発令のため活動を中止

<参加生徒の主な感想>

- ・未来に自然をつなげていくため、何をしていけばいいのかわることができました。
- ・新しいことをする上で、大切なことを教えてくれて参考になりました。
- ・海や山がとてもきれいなのは、人々が毎日行っている何気ない行動が作り上げているんだと気付きました。



講義①

講義②

講義③

3 第43回専門部会の開催

(1) 会議の概要

(日時) 令和8年3月17日 (火) 13時30分～14時00分

(会場) オンライン

(議事) 来年度の協議事項、情報共有等

(2) 協議内容

令和8年度の専門部会での協議事項等について意見交換を行った。

4 令和8年度の協議事項 (予定)

回数	内容
年3回	・賀茂地域のこどもたちの未来を見据え、学びの質の確保・向上に向けた協議 ・未来を切り拓くDream授業・賀茂版 ・その他、必要に応じて設定

「ふるさとに誇りと愛着を持ち、地域の発展に貢献できる人」(賀茂の子)を育むため、地域と連携した取組を推進する。

「見よう！作ろう！楽しもう！小学生職場体験講座」

地域の魅力ある企業の存在を知ること、学ぶことや働くことの意義、将来、**地元就職が選択肢のひとつとなる職業観・勤労観の形成**を目的に、企業紹介と職場体験を兼ねた小学生向け職場体験講座を実施した。

昨年度は賀茂地域、東部地域、中部地域で実施した当事業が、参加者から好評だったことも踏まえ、令和7年度は西部地域にも開催エリアを拡大し、全県での実施となった。

事業概要

対象者	小学3年生～6年生と保護者
開催期間	令和7年7月24日(木)～8月24日(日) [夏休み期間]
対象地域	県内全エリア
参加企業	賀茂地域：24社(参考：東部69社、中部37社、西部23社)
参加者	賀茂地域：240人(小学生125人、保護者115人)

令和8年度について

夏休みと冬休みの2回実施予定。地元での職業観の形成とともに、体験講座を通じた地域への愛着を育む取組を推進する。

(講座の様子)



干物専門店(小木曾商店)



ホテル(稲取銀水荘)



林業(丸高ティーティー(株))

カモスマ出前講座

賀茂地域で活躍している輝く大人「賀茂のカリスマ」(カモスマ)の活躍を**地域の児童・生徒に直接伝える出前講座を実施した。**

事業概要

学校からの要請に基づき、賀茂小学校で3回、河津中学校で1回講座を実施した。

賀茂小学校(西伊豆町) 河津中学校(河津町)



令和8年度について

新たなカモスマを発掘し紹介するとともに、出前講座については対象カモスマを拡大することで、児童・生徒への学びの機会を創出していく。

若旅プロジェクト(大学生による賀茂地域魅力発信プロジェクト)

美しい伊豆創造センター及び(株)Otonoと協働し、**伊豆半島ジオパーク公式サイトへの音声ガイドサービスを追加した。**

(令和7年度実績)

- 下田市のジオサイトを中心とした音声ガイドを作成
QRプレートを作成し近隣のジオ看板等に設置

音声ガイドスポット(計7カ所) 弁天島、恵比寿島、田牛サンドスキー場、龍宮窟、爪木崎、ペリーロード、蓮台寺

- 音声収録に下田市の小学生をキャスティング
- QRプレートに小学生のイラストを採用
- 水仙まつりで音声ガイドお披露目イベントを実施



お披露目会

大学連携/賀茂キャンパスの活用

地域の児童・生徒や地域住民を対象に、賀茂キャンパスで講座を行った。

令和7年度の実績

R7. 6. 11	賀茂キャンパス活用推進委員会
R7. 6. 24	静岡大学東部サテライト公開講座オンライン視聴会①
R7. 7. 10	観光人材育成のための社会人講座④(静岡県立大学による講座)
R7. 7. 15	静岡大学東部サテライト公開講座オンライン視聴会②
R7. 8~12	伊豆サテライトミュージアム
R7. 9. 9	静岡大学東部サテライト公開講座オンライン視聴会③
R7. 9. 11	観光人材育成のための社会人講座④(静岡県立大学による講座)
R7. 11. 14	地域の魅力発掘プロジェクト
R7. 12. 18	観光人材育成のための社会人講座④(静岡県立大学による講座)
R7. 12. 20	静岡大学公開講座
R8. 2. 7, 8	静岡大学リカレント教育プログラム
R8. 2. 10	富士山講座(富士山世界遺産センターによる出前講座)
R8. 2. 20	観光人材育成のための社会人講座④(静岡県立大学による講座)

地域の魅力発掘プロジェクト

高校生と静岡県立大学生と一緒にフィールドワークを行い、松崎町内の地域資源(自然・歴史・地域産業・生活文化等)を整理(「お宝台帳」の作成)、今後の地域活性化に向けた具体的なアイデアに向けたグループワークを実施した。

時期 令和7年11月15日(土)
 場所 松崎町内
 内容 フィールドワーク(地域住民との交流や意見交換)
 グループワーク(発表・考察・講評)

参加者 17人(高校生:10人、大学生:8人)

[共催] 賀茂キャンパス活用推進委員会(静岡県立大学、賀茂地域局等)、
 松崎町、賀茂地域探求コンソーシアム



2

伊豆サテライトミュージアム

ふじのくに地球環境史ミュージアム、下田市教育委員会との共催により、伊豆サテライトミュージアム(出張展示)を実施した。

期間 第1弾「しずおかの食」 R7. 8. 18~9. 7
 第2弾「昆虫の世界」 R7. 9. 9~9. 29
 第3弾「魚の世界」 R7. 11. 20~12. 7
 場所 道の駅開国下田みなと(下田市)
 来場者 延べ43,044人

(関連プログラム)

R7. 9. 23

「昆虫探検隊in下田」(小学生向けイベント)[18人]

「日本の昆虫学 幕開けの地・伊豆」(講座)[20人]

R7. 11. 22

「魚の探検隊in下田」(小学生向けイベント)[6人]

「下田の魚のおもしろさ」(講座)[30人]



出張展示



イベント

学生アンケートの実施

賀茂地域の大きな課題である若年層の人口流出について検討するに当たり、若者世代の意向を把握するため、学校の協力のもとアンケートを実施した。

(実施結果)

対象	賀茂地域の小学5~6年生、中学生、高校生 2,517人 ※小学校(16校)、中学校(8校)、高校(4校)
期間	令和8年2月3日から27日まで
調査方法	Googleドライブを利用したオンライン実施
回答数	1,399人(回収率:55.5%)
結果	別紙のとおり

令和7年度学生アンケート結果概要（速報）

○趣旨

賀茂地域における大きな課題である若年層の人口流出について検討するに当たり、若者世代の意向を把握するため、学生アンケートを実施した。

各学年の傾向をより詳細に把握するため、賀茂地区の16小学校の小学5年生から6年生、8中学校、4高校（分校含む）の全ての児童・生徒を対象とし、毎年実施する。

○実施期間

令和8年2月3日～2月27日

○調査方法

Googleドライブを利用したオンライン実施

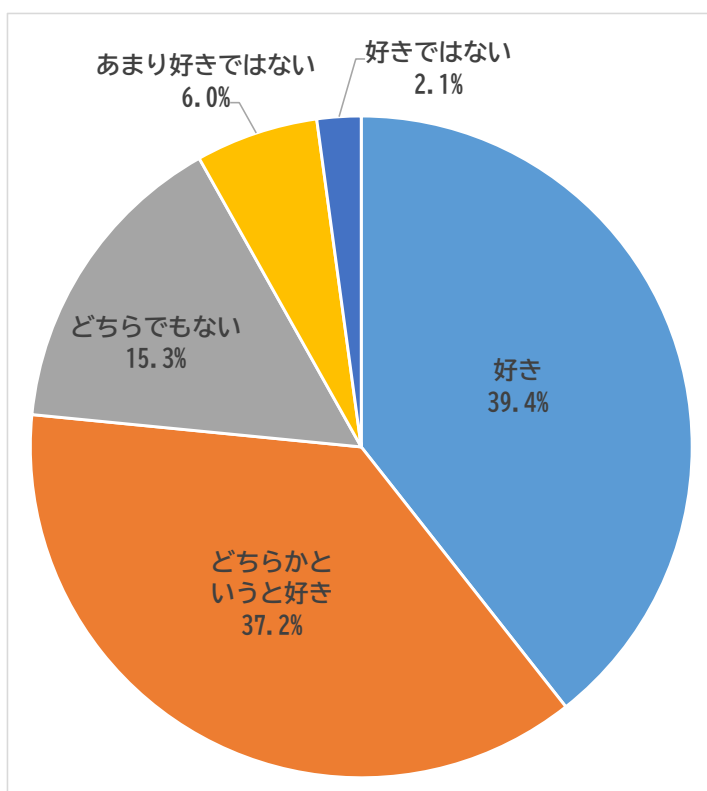
○回答状況

（単位：人）

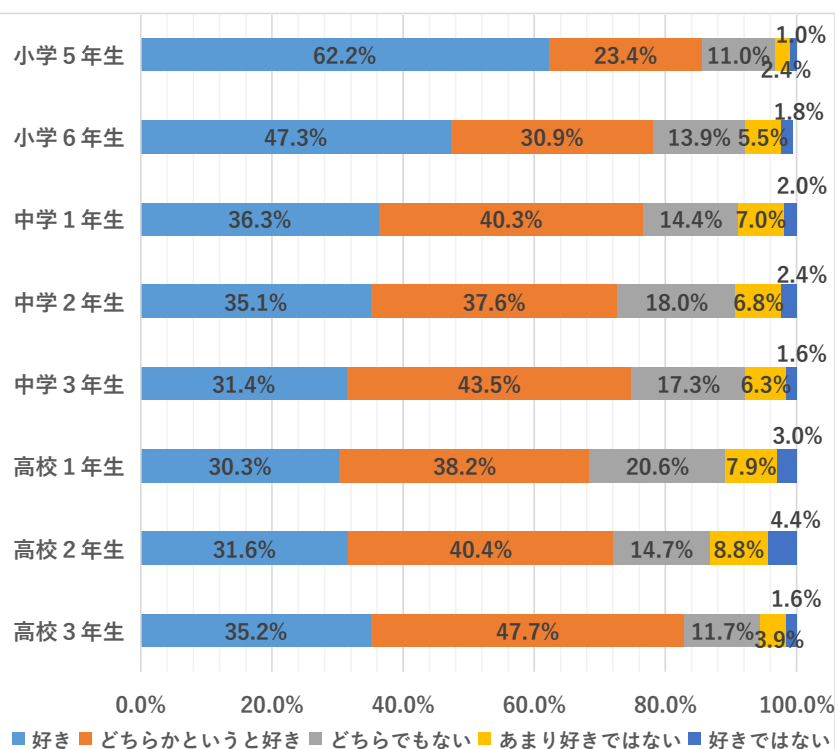
	小学生			中学生				高校生				合計
学年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
回答者数	209	164	373	201	205	191	597	165	136	128	429	1,399
調査対象者数	306	329	635	318	360	360	1038	264	283	305	852	2,517
回答率（%）	68.3	49.8	59.7	63.2	56.9	53.0	57.3	62.5	48.0	41.9	50.3	55.5

1. あなたは今暮らしている市町が好きですか？

○全体

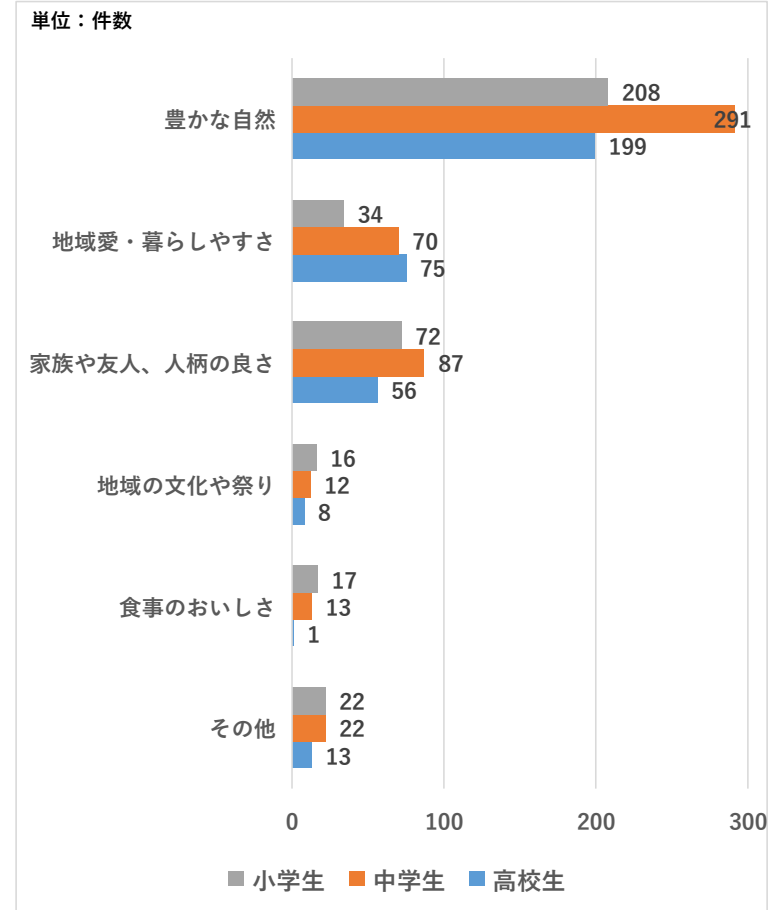


○学年別

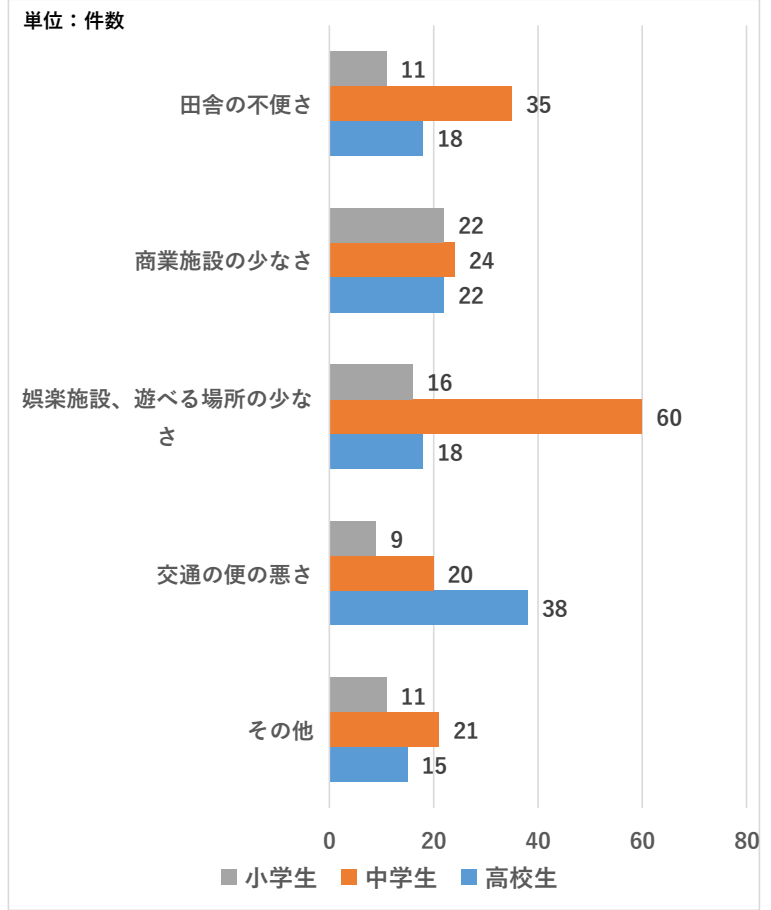


1-2. その理由を教えてください。

○好きな理由

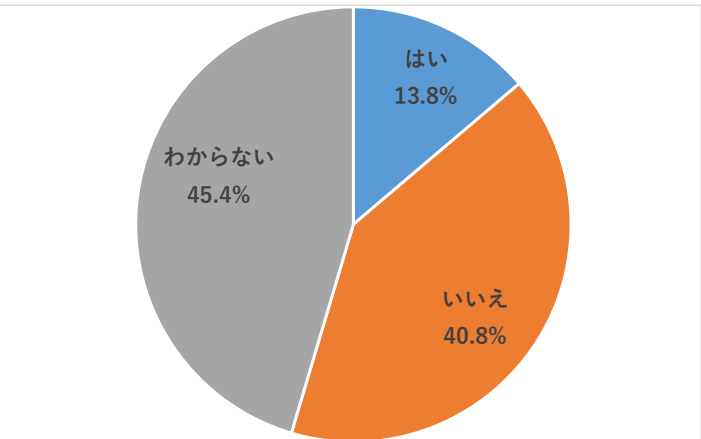


○好きではない理由

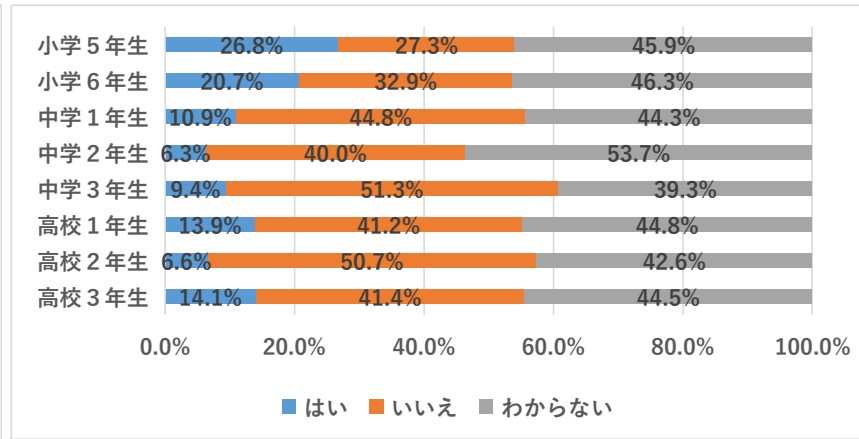


2. 今から15年後、あなたは賀茂地区に住んでいたいですか？

○全体

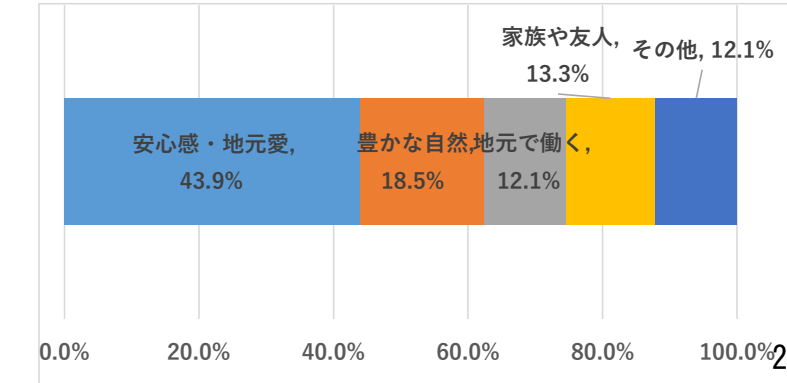


○学年別

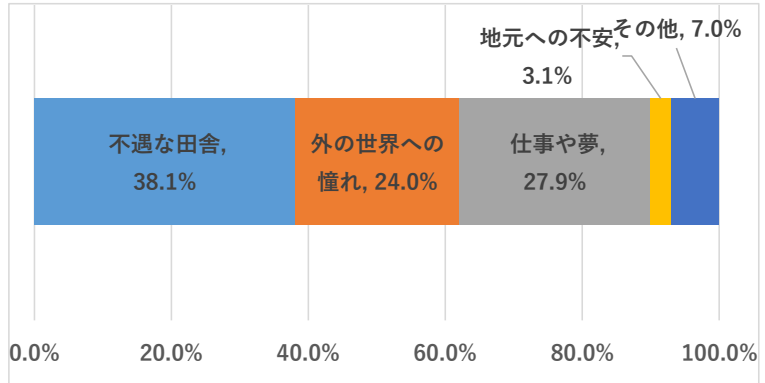


2-2. その理由を教えてください。

○住んでいたい理由



○住んでいたくない理由

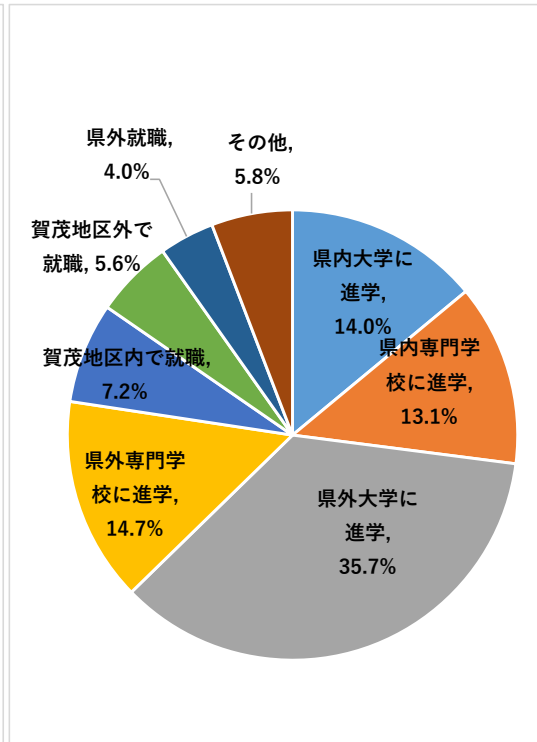
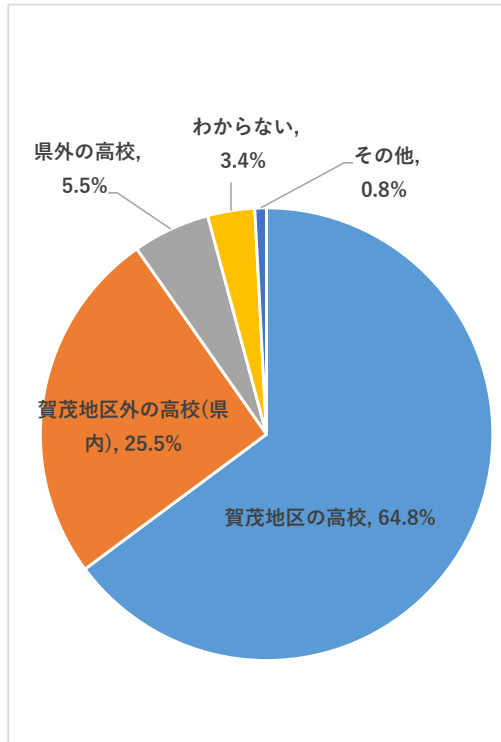
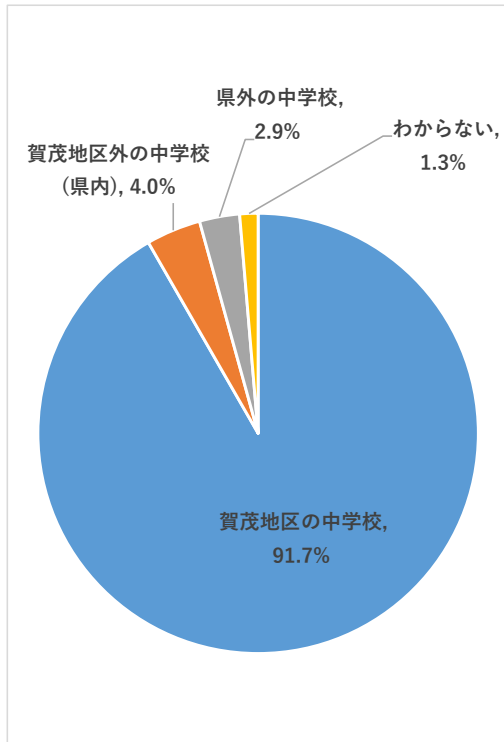


3. あなたの希望する進路について教えてください

○小学生（回答数：534名）

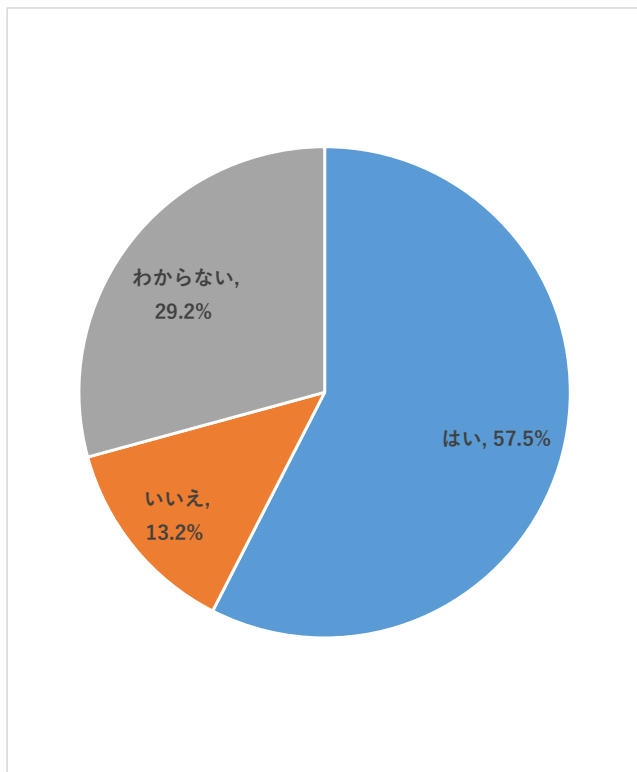
○中学生（回答数：771名）

○高校生（回答数：414名）

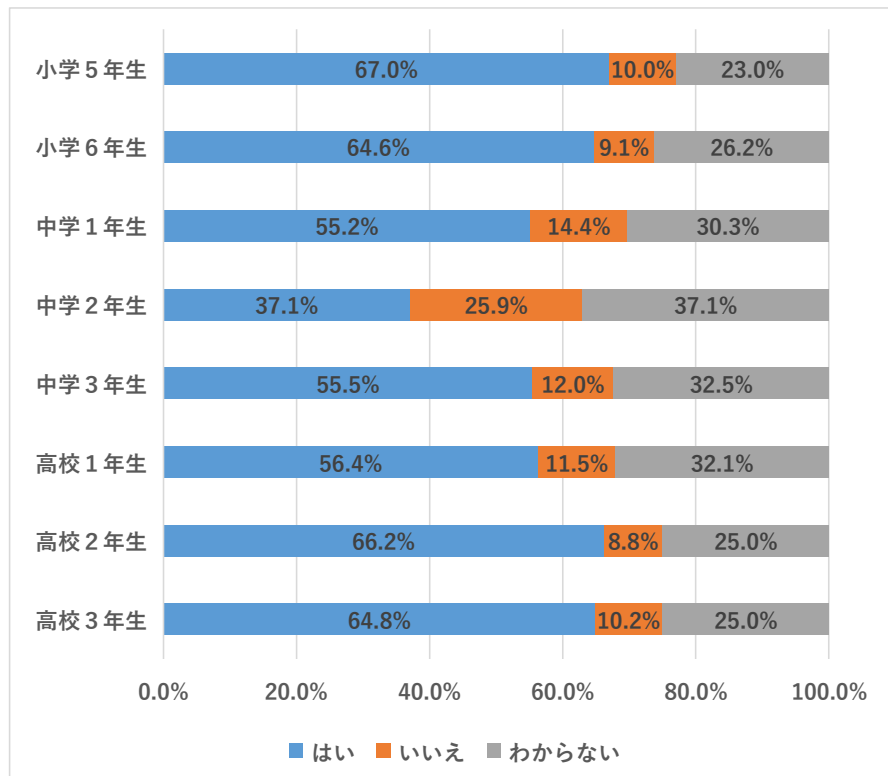


4-1. 将来やりたい仕事はありますか？

○全体



○学年別



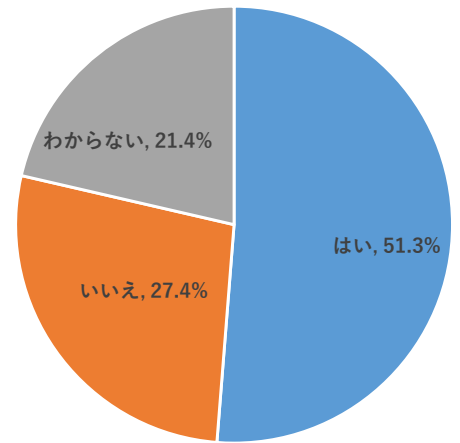
4-2. その仕事は何ですか？また、その仕事は賀茂地区でもできると思いますか？

順位	小学生	中学生	高校	全体
1	スポーツ関係	医療・福祉系	医療・福祉系	医療・福祉系
2	医療・福祉系	エンジニア・IT・技術、製造系	教育・公務系	教育・公務系
3	エンタメ・クリエイティブ	教育・公務系	エンジニア・IT・技術、製造系	エンジニア・IT・技術、製造系
4	料理・飲食関係	エンタメ・クリエイティブ	美容・ファッション・デザイン	エンタメ・クリエイティブ系
5	動物・自然関係	料理・飲食関係	料理・飲食関係	スポーツ関係
6	教育・公務系	スポーツ関係	エンタメ・クリエイティブ	料理・飲食系
7	エンジニア・IT・技術、製造系	動物・自然関係	動物・自然関係	美容・ファッション・デザイン系
8	美容・ファッション・デザイン	美容・ファッション・デザイン	スポーツ関係	動物・自然関係
9	接客・観光・サービス業	接客・観光・サービス業	接客・観光・サービス業	接客・観光・サービス業

※区分別具体例（一部）

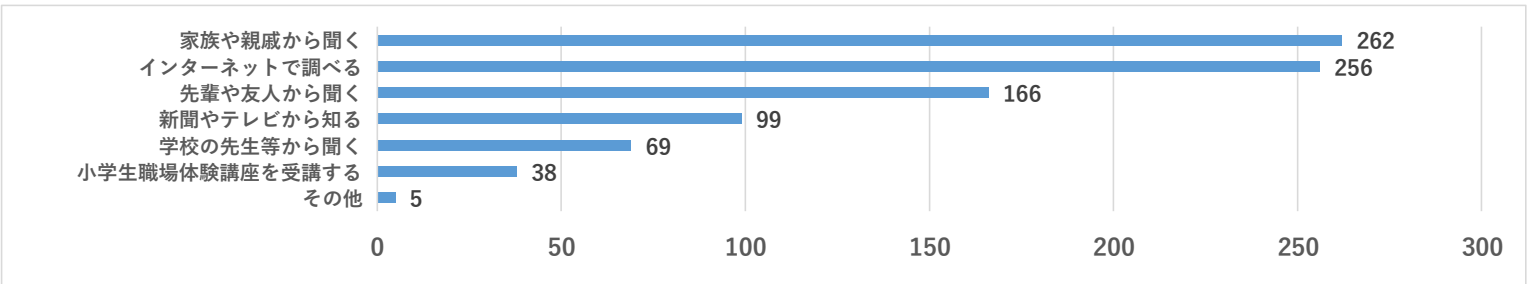
- 医療・福祉系：看護師 / 助産師 / 医者 / 歯科衛生士 / 薬剤師
- スポーツ関係：スポーツ選手 / トレーナー
- 教育・公務系：教師 / 公務員 / 消防士 / 警察官 / 自衛隊
- エンタメ・クリエイティブ：イラストレーター / デザイナー / 俳優 / CGクリエイター / YouTuber
- エンジニア・IT・技術系：プログラマー / ゲームクリエイター / エンジニア / 建築士 / 設計士 / 大工 / 家具職人
- 動物・自然関係：獣医師 / 動物園の飼育員 / ペットトリマー
- 料理・飲食系：料理人 / パティシエ / 板前 / 給食調理 / 飲食店経営
- 美容・ファッション・デザイン：美容師 / ネイリスト / ウェディングプランナー / ファッションデザイナー
- 接客・観光・サービス業：ホテルスタッフ / キャビンアテンダント / テーマパークキャスト / 銀行員

あなたのやりたい仕事は賀茂地区でも出来ますか？

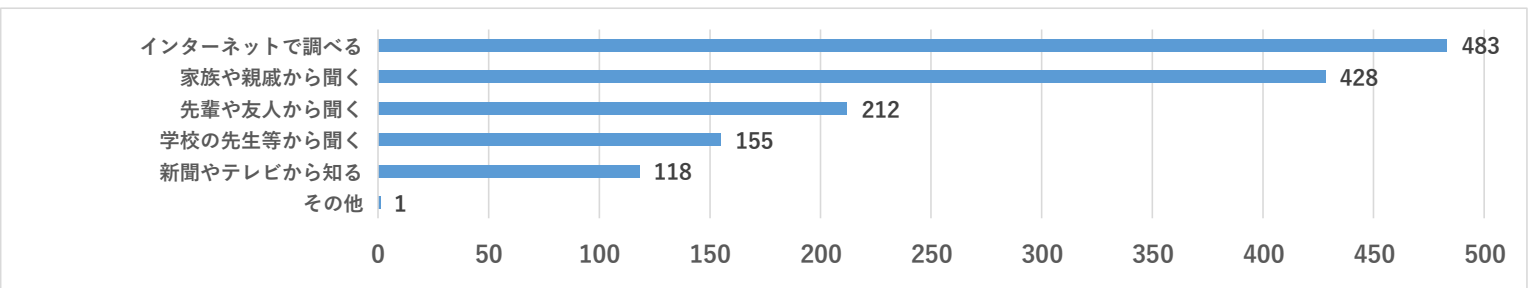


5. もし、あなたが賀茂地区で働くとしたら、どのようにして情報を集めますか？（複数回答可）

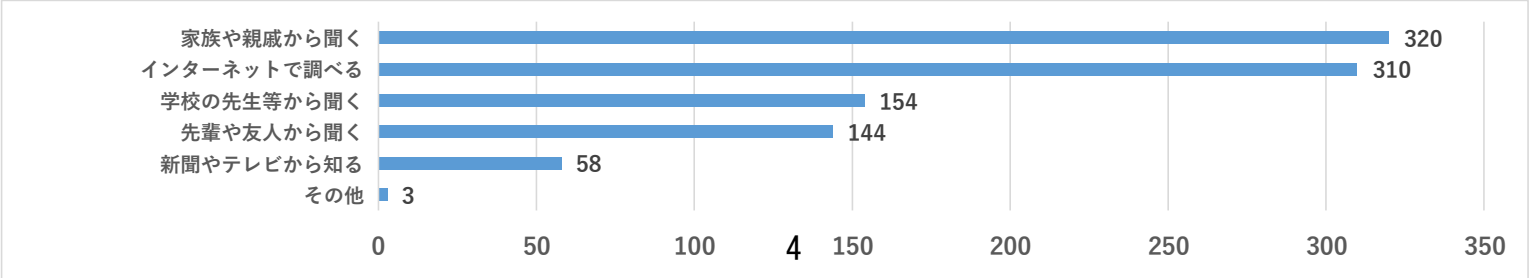
○小学生



○中学生

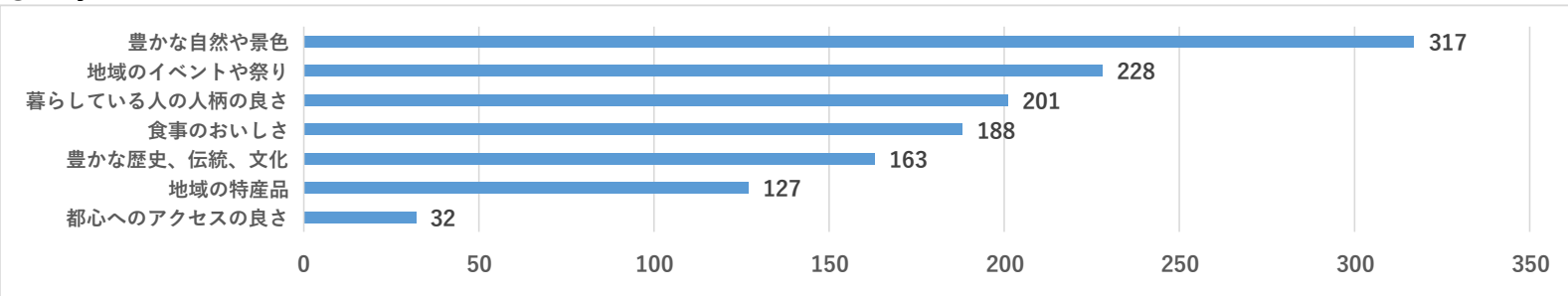


○高校生

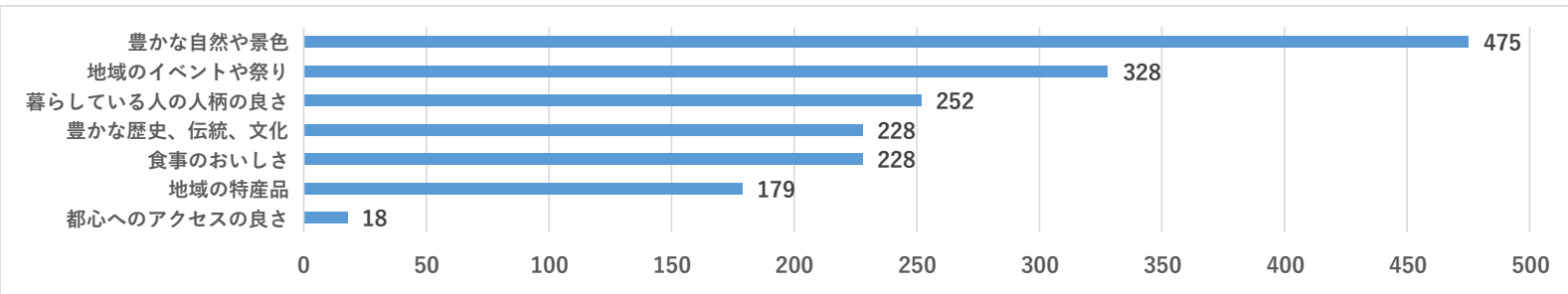


6. あなたは賀茂地区のどんなところが魅力的だと思いますか？（複数回答可）

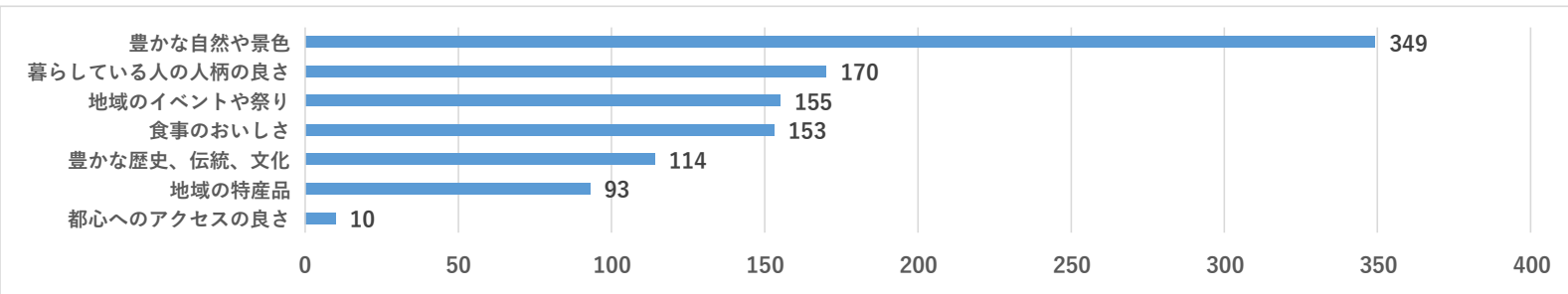
○小学生



○中学生

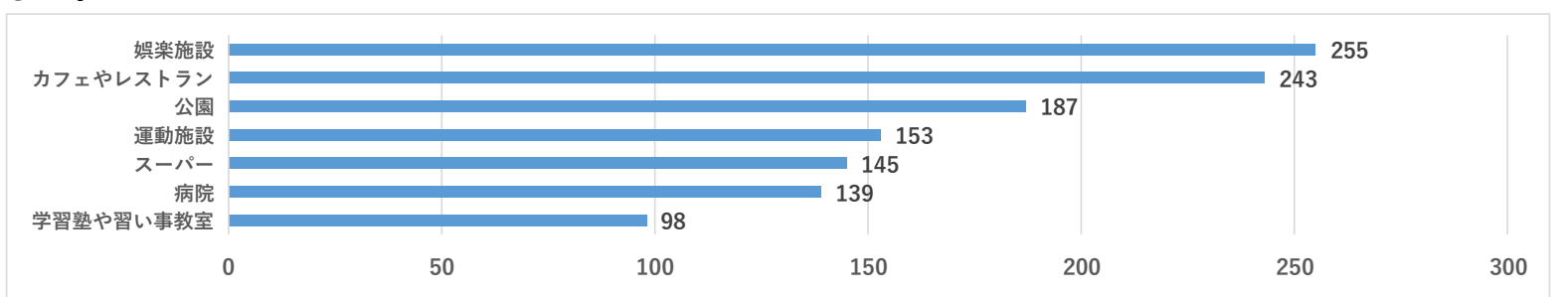


○高校生

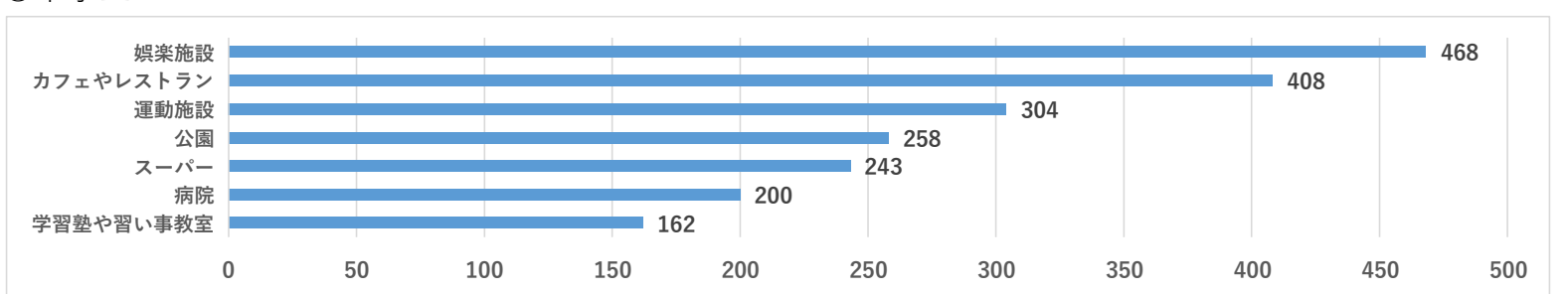


7. あなたが暮らす市町にあったらいいなと思う施設を教えてください（複数回答可）

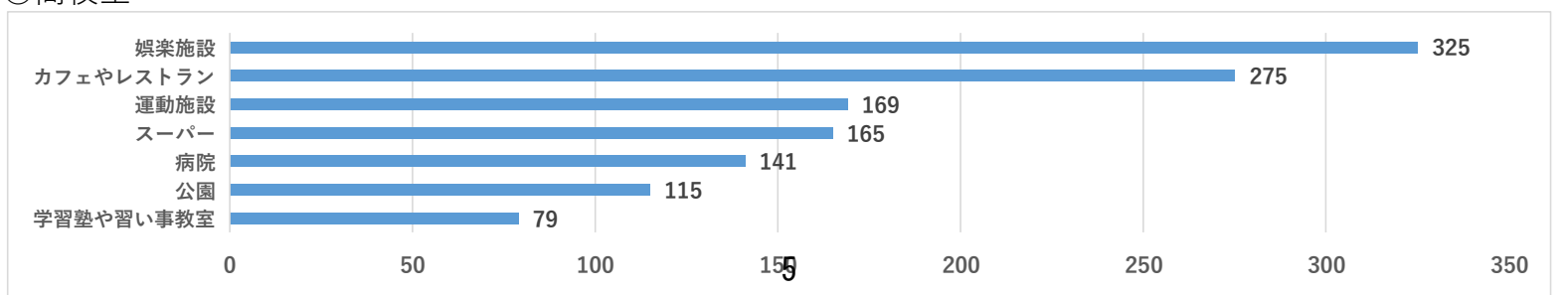
○小学生



○中学生



○高校生



報告事項

賀茂地域 1 市 5 町における母子保健事業の共同実施について (令和 8 年度～ 1 歳 6 か月児・3 歳児健康診査及び産前教育事業)

賀茂地域 1 市 5 町では、令和 8 年度から母子保健事業のうち 1 歳 6 か月児・3 歳児健康診査及び産前教育事業を共同実施する。

1 共同実施の理由（背景）

- ・少子高齢化や人口減少の影響を受け、乳幼児や妊婦が減少し、母子保健事業を実施する際、従事者に対して対象者が少ないまたはいないといった状況が生じている。
- ・乳幼児健診に従事する小児科医の確保が困難になりつつある。
- ・各市町の保健師・栄養士等の人材確保も厳しい状況であるため、近い将来、単独市町で母子保健事業を実施することが困難になってくることが予測される。

2 実施方法（概要）

下記事業をブロックごとで共同実施とする。

(1) 1 歳 6 か月児・3 歳児健康診査

	下田・南伊豆・松崎・西伊豆ブロック	東伊豆・河津ブロック
開催頻度	年 12 回 1 歳 6 か月児、3 歳児とも毎月同日に実施	年 6 回（奇数月）
会場	下田市（下田市民文化会館）	双方の保健福祉センターにて、隔月で交互に実施
費用負担	年間費用の 4 割を均等割定額で、6 割を対象者数で按分して負担	輪番方式 （健診費用を隔月で交互に負担）

(2) 産前教育事業（プレママパパセミナー等）（★相互乗入での実施）

	下田・南伊豆・西伊豆ブロック （※松崎町は令和 9 年度からの共同実施を検討中）	★東伊豆・河津ブロック
開催頻度	4 クール（2 回コース）	東：年 3 回（1 日コース） 河：年 4 回（1 日コース）
会場	下田市役所 河内庁舎 1 階 ※ハイブリッド方式での実施（オンライン参加も可能とする）	東：東伊豆町保健福祉センター 河：河津町保健福祉センター ※事業は単独で実施するが、ブロック内対象者の相互乗入れを可能とする
費用負担	年間費用の 4 割を均等割定額で、6 割を対象者数で按分して負担	費用負担は事業を実施する町が負担

3 共同実施のメリットとデメリット

(1) メリット

- ・共同実施により、従事者確保及び事業の実施回数の増加または現状維持が可能になる。
- ・参加者数の増加により、参加者同士の交流の場となり、妊娠出産育児への不安軽減を図ることができる。
- ・対象者数が少ない町の母子保健担当者にとってはノウハウを維持し、スキルを向上すること

ができる。

- ・各市町で費用を分担するため、1市町あたりの経費削減が見込まれる。
- ・事業の進捗管理や事業評価体制が整う。

(2) デメリット

- ・健診会場が遠くなる住民にとっては、移動に伴う負担が生じる。
- ・共同実施のための打合せや進捗管理、事業評価等の事務負担が増加する。

4 その他

- ・令和8年度は上記の事業で共同実施を開始するが、将来的には当該事業以外の母子保健事業の共同実施も視野に入れて検討する。

令和 8 年 3 月 25 日

インフラの包括維持管理について

(下田土木事務所)

1 概 要

将来にわたって持続可能なインフラの維持管理の実現に向けて、事業者やインフラ等を大きくまとめて、効率的・効果的にマネジメントする体制を構築していく。

2 課題

インフラ老朽化と人手不足により、近い将来にインフラを適正に管理できない恐れがある。

同時進行
する危機

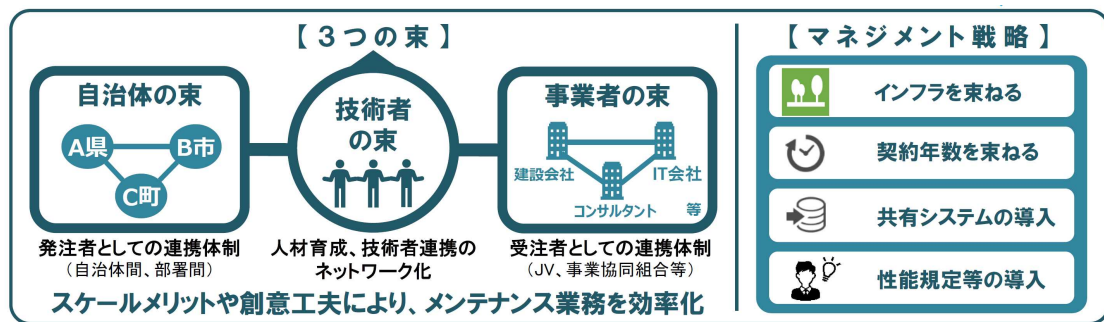
インフラ老朽化

×

人手不足

3 目指す姿

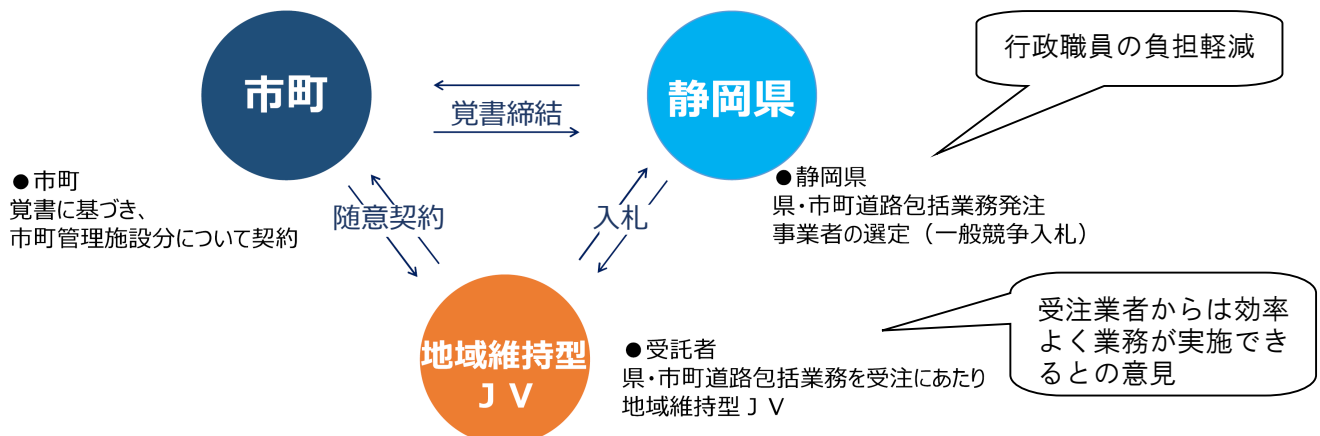
地域のインフラや複数の自治体を束ねることで、効率的な維持管理体制を構築する。



4 先導的な取組（一体型道路等包括管理業務委託）

- 令和5年度から、県が管理する国道・県道と、下田市が管理する市道をまとめて、共同企業体に管理委託することで、管理業務の一元化と効率化を図っている。
- 令和7年度は、県と南伊豆町でも同様の取組を開始
- 今後は、他の町や、道路に加えて河川や砂防も束ねるなど、取組の拡大を進めていく。

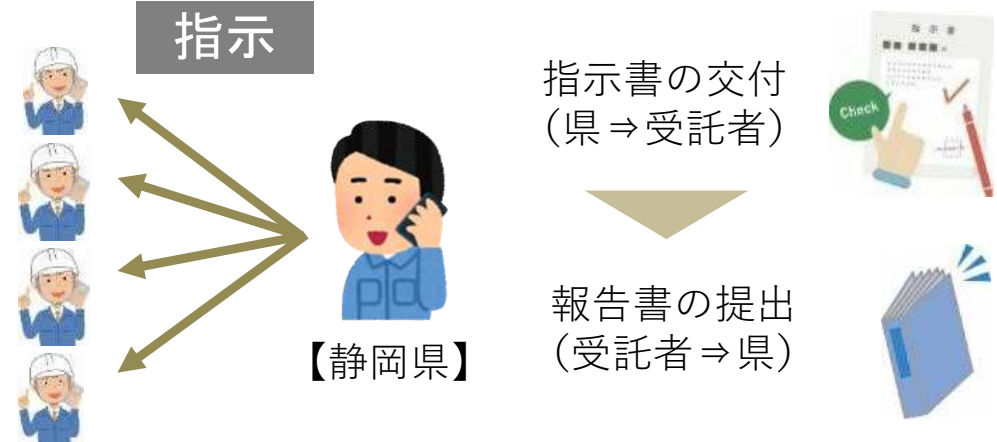
一体型道路等包括管理業務の事業スキーム



一体型道路等包括管理業務委託

従来

業務	現契約
小規模施設修繕	●●土木
舗装補修	●●工業
道路照明施設維持修繕	●●電気
雪氷対策	●●工務店



試行

業務	令和7年度
小規模施設修繕 舗装補修 雪氷対策 <small>※R7～道路照明は別契約</small>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県・下田市 ⇒ 2者JV ■ 県・南伊豆町 ⇒ 12者JV

契約期間：7月1日～翌年7月31日
県及び市が同一の事業者と契約

※令和8年度は西伊豆町・松崎町とも実施に向け調整中

共有



区分	従来
契約支払	業務量の単価または見積額の合計
要求水準	なし
出来形確認	月次報告書の作成→支払
実施業務	1業務50万円を上限とする



区分	試行
契約支払	総価契約支払（県約3千万円、市約1千5百万円）
要求水準	要求水準（想定業務回数）以上の業務を行う
出来形確認	3者によるモニタリング（4半期1回）⇒部分払
実施業務	同左（令和7年度からは100万円）

令和 8 年 3 月 25 日

道路除草協同化モデル事業について

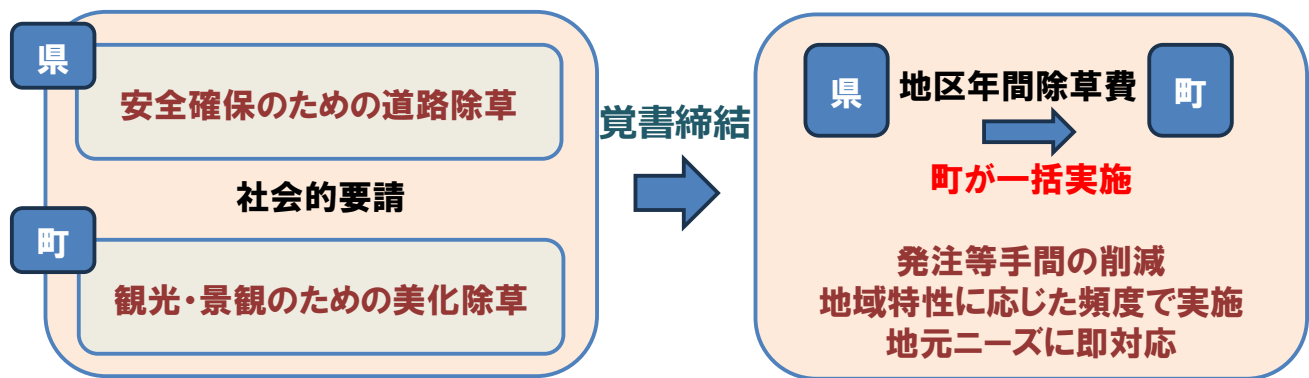
(下田土木事務所)

1 概要

県と西伊豆町は、年間を通じて効果的・効率的にきめ細やかな道路除草を行う「道路除草共同化モデル事業」を令和 6 年度から開始し、良好な道路環境や景観の保全に努めている。

2 事業スキーム

県が管理する国道・県道と、西伊豆町が管理する町道をまとめて、町が一括して除草を行う。



3 事業効果

- 1) 必要な箇所を複数回除草するなど、地域の実状に応じたきめ細やかな対応が可能
- 2) 地域の要望に対して速やかな対応が可能
- 3) 効率的な交通規制により、交通影響の低減が可能

	実施前	実施後
実施者	国道・県道は県、町道は町が除草	国道・県道・町道を町がまとめて除草
事業費（県）	9,000 千円	9,000 千円
除草回数・延長 （国道・県道の年間）	(国) 136 号：1 回 (13.5km) (主) 伊東西伊豆線：1 回 (22.5km) (一) 仁科峠宇久須線：1 回 (11.3km) 除草延長：47.3km	(国) 136 号：8 回 (37.0km) (主) 伊東西伊豆線：5 回 (35.0km) (一) 仁科峠宇久須線：3 回 (12.6km) 除草延長：84.6km
除草時期	梅雨明け前後に 1 回除草	必要に応じて随時除草

4 今後の対応

他の市町においてもモデル事業が実施できるよう調整を進めていく。

地域とデジタルノマドとの架け橋を担うコミュニティマネージャーを育成し、ネットワーク化を促進することで、賀茂地域におけるデジタルノマドの受入体制の構築・展開を図る。

令和7年度の取組

デジタルノマド受入体制構築事業

下田市を中心にデジタルノマド誘致を行っているELENTO合同会社と連携した取組を実施

(1) オンライン説明会（勉強会）

時期：令和7年10月20日（月）

内容：デジタルノマドに関する知識や動向、コミュニティマネージャーの必要性等を共有
コミュニティマネージャー育成講座について説明

(2) コミュニティマネージャー育成講座

期間：令和7年10月27日（月）～1月15日（木）（全5回）

受講者：15名

内容：コミュニティマネージャーの役割、必要なスキルを共有
海外コミュニティマネージャーによる講義

（コリビング・プログラムの運営、集客、持続可能なコミュニティ構築について等）

(3) デジタルノマド受入プログラムの実施

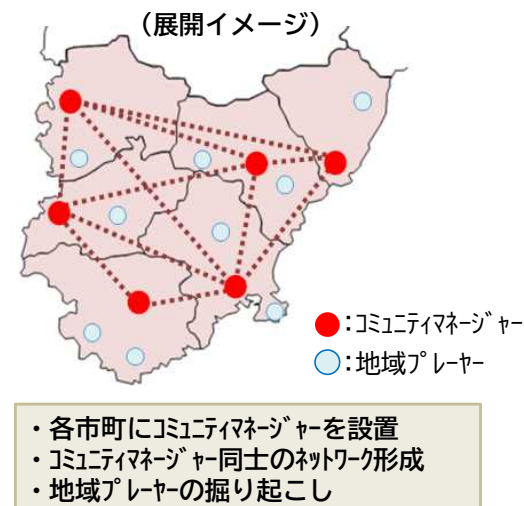
受講者によるデジタルノマド受入プログラムの企画、運営を通じて、地域とのコーディネートの実践やCM同士のネットワーク強化を図る。

時期：令和8年3月7、8日（土・日）

参加者：ノマド10名、講座受講生等9名

内容：松崎・西伊豆での自然、歴史・文化の体験、地域住民との交流

（カネサ鯉節商店、はんばた市場、雲見浅間神社、大田子海岸などを周遊）



令和8年度の方向性

令和7年度の取組における課題を整理した上で、デジタルノマド受入体制の構築、強化に向けた取組を検討・実施する。

デジタルノマド誘致・受入体制の広域展開イメージ

- : コミュニティマネージャー
- : 地域プレイヤー
- : 受講生(数字は人数)

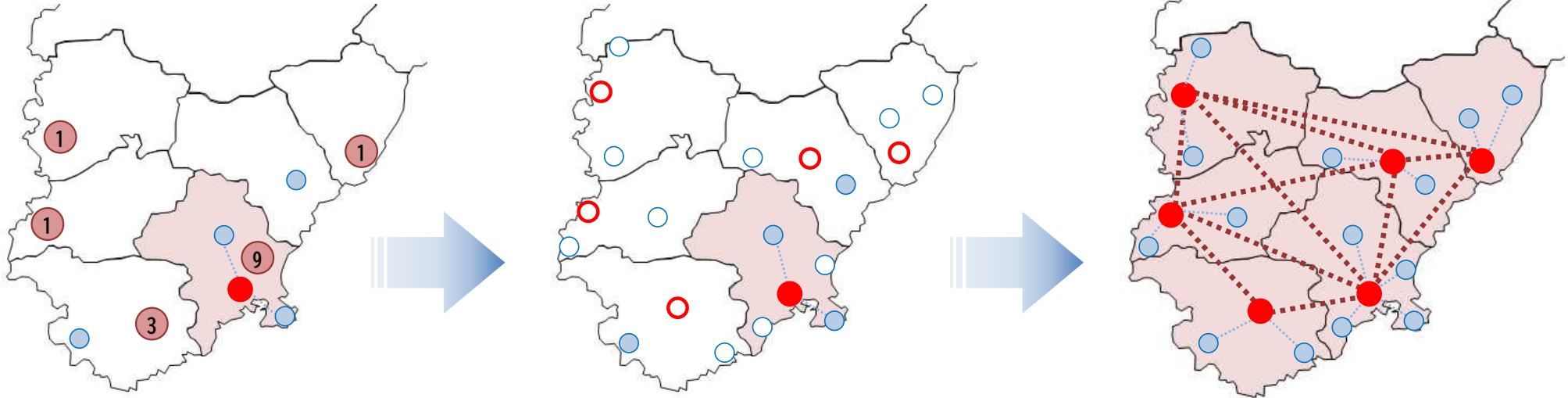
【現状】

- ・他市町への横展開が必要
- ・市町職員、住民の理解が必要
- ・地域プレイヤーの不足

賀茂地域への広域展開

- <理解・気運の醸成>
- ・地域の理解、気運が高まる
 - ・地域プレイヤーの掘り起こし

- <体制の構築>
- ・各市町にコミュニティマネージャーを設置
 - ・コミュニティマネージャー同士のネットワーク形成



① 勉強会の開催

- [Point]
- ・市町、住民を巻き込む(地域理解)
 - ・デジタルノマドによるメリットを共有する

② コミュニティマネージャーの育成

- [Point]
- ・コミュニティマネージャーを増やす(地域おこし協力隊等の活用)
 - ・イベント等を通じたコミュニティマネージャー同士の交流や育成を支援する

二地域居住の推進に向けた本県の取組

(企画部企画課)

1 要 旨

人口減少が進む中、そうした社会を前提に、地域の活力や豊かな生活を維持・向上させていくため、主な生活拠点と別の地域に生活拠点を設ける「二地域居住」を推進し、都市と地方の人材の好循環を図る。

2 方 針

- ・国制度に基づき、特定居住促進計画（市町計画）を策定する市町を支援（県計画は令和7年10月31日に策定）
- ・国補助事業を積極的に活用し、県内各地で取組を推進
- ・特に、首都圏から近く、温泉をはじめとした観光資源が豊富であり、二地域居住と好相性の賀茂地域を重点地域とし、広域連携モデルの構築を目指す

3 賀茂地域における取組

○官民連携プラットフォームの設置(令和7年11月～ 国庫補助採択を受け実施)

目 的	賀茂地域1市5町に共通する課題（交通、滞在施設等）を整理し、市町の枠を越えて取り組む広域連携モデルの構築を目指す
構成団体	県、賀茂地域1市5町、民間企業

4 その他の取組

- 令和7年10月3日、東京(渋谷)にて二地域居住に関するイベントを開催。第二弾として、令和7年12月13日、東伊豆町にて二地域居住の体験ツアーを開催。
- 令和7年11月23日、「JOIN 移住・交流&地域おこしフェア2025」に、関東知事会二拠点居住等研究部会(本県を含む10都県)が共同してPRブースを出展。

5 市町の取組（全て国庫補助採択を受け実施）

市町名	事業概要	
森町	都市部ファミリー層をターゲットとしたアンケート調査、二地域居住推進体制の構築 等	※
三島市・長泉町	二地域居住に関する相談窓口設置、滞在施設紹介、移動手段(モビリティサービス)の提供 等	※
焼津市	カーシェアの活用、コワーキングスペースでの託児サービス実証、二地域居住ツアーの実施、二地域居住アンバサダーの設置 等	
下田市	地域の窓口となり、二地域居住者と地元住民をつなげるコミュニティ・マネージャーの設置・育成、二地域居住コーディネーターの設置 等	
松崎町	二地域居住者のニーズや課題調査、地域住民の理解促進ワークショップの開催 等	※

※県が協議会に参画

<目指す姿>

人口減少が進む中、二地域居住を積極的に推進し、新しい暮らし方によるウェルビーイングの向上に取り組む。

- ▶多様なライフスタイルの実現を通じて、地域を訪れる方の満足度を向上
- ▶地域を訪れる方との交流や、モノ・サービスの創出などを通じて、地域の満足度を向上

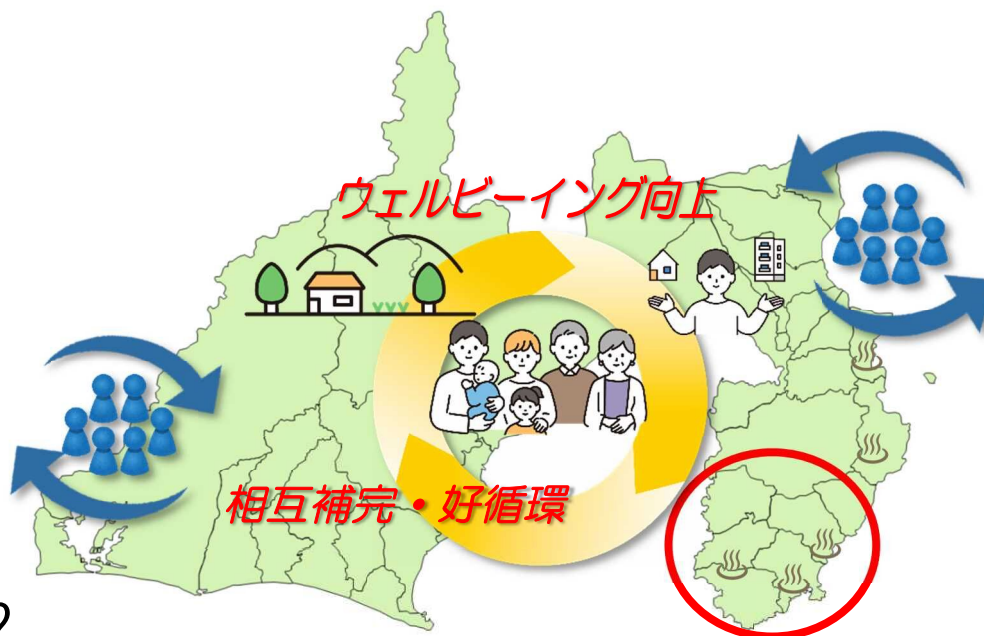
<推進の方向性>

- ・静岡県は、首都圏や中京圏等と近接し、都市と地方の両方の魅力を楽しむ二地域居住の適地である。
- ・県内市町の立地条件等を考慮し、「移住・定住型」や「二拠点型」など、地域の実情を踏まえた新しい暮らしを提案する。
- ・首都圏に近い東部、伊豆地域を「重点エリア」とし、地域のポテンシャル(豊かな自然環境、温泉資源など)を活かした取組を推進する。

(東部・伊豆地域を「重点エリア」とする考え方)

- ・首都圏から近く、都市部の二地域居住関心層へのアプローチがしやすい
- ・特に、伊豆地域は、温泉をはじめとした観光資源が豊富であり、二地域居住やワーケーションと好相性のポテンシャルがある

⇒ まず、賀茂地域を対象に、市町の枠を超えて取り組む「広域連携モデル」を構築



県内市町の二地域居住取組状況

森町	国補助事業(二地域居住実装プロジェクト) (県：協議会に参画)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部ファミリー層を対象としたアンケート調査 ・二地域居住推進体制の構築 ほか

三島市 長泉町	国補助事業(地域生活圏リーディング事業) (県：協議会に参画)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・二地域居住に関する相談窓口設置 ・滞在拠点施設紹介 ・移動手段(モビリティサービス)の提供 ほか

焼津市	国補助事業(二地域居住実装プロジェクト)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カーシェアの活用 ・コワーキングスペースでの託児サービス実証 ・二地域居住ツアーの実施 ほか

下田市	国補助事業(二地域居住実装プロジェクト)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・二地域居住者と地元住民をつなげる コミュニティマネージャーの設置・育成 ほか

松崎町	国補助事業(二地域居住実装プロジェクト) (県：協議会に参画)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・二地域居住者のニーズや課題調査 ・地域住民の理解醸成や関係人口登録制度の実証 ほか

**賀茂モデル地域
(1市5町)**

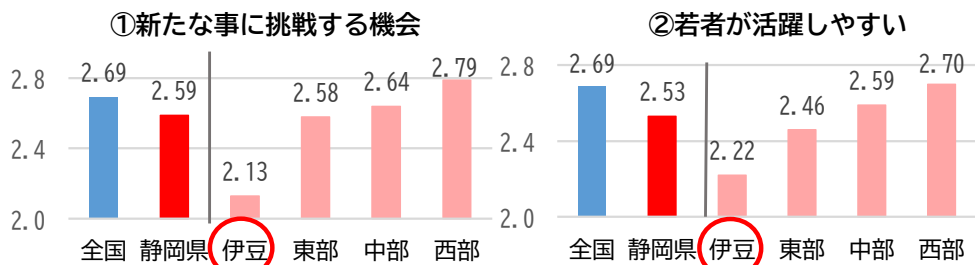
ICOIプロジェクト
(旅館オフィス化事業)
<採択市町>
伊豆の国市、下田市、
東伊豆町、南伊豆町

賀茂 地域	国補助事業(地域生活圏リーディング事業)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携プラットフォームの設置 ・賀茂地域広域連携モデルの検討 ・個別伴走支援 ⇒ 東伊豆町、松崎町

地域活性化 — 二地域居住の推進 —

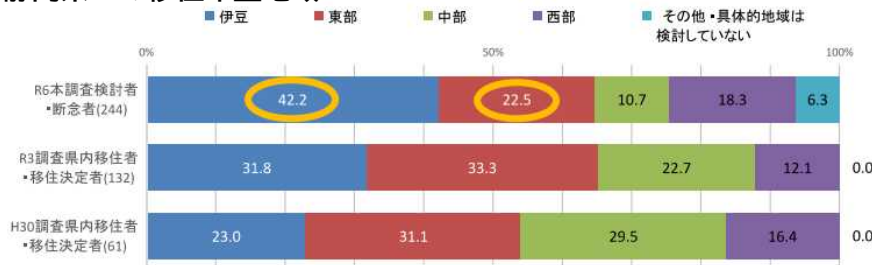
主観指標

- Q ①暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある
 ②暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある



(参考：R6静岡県への移住に関する調査)

静岡県への移住希望地域



分析

- 人口減少・高齢化により地域の担い手が不足しており、事業創造や若者活躍に対する満足度が低い
 特に、人口減少が著しい伊豆地域は、満足度が低い傾向
- 人口減少社会の中で、地域の豊かさを維持するためには、都市と地方の人材の好循環を生み出すことが有効
- 静岡県は、首都圏に近接する「二地域居住」の適地
 特に、伊豆地域は移住先として人気が高く、関心層にアプローチしやすい

政策立案

- 県の魅力を発信するほか、東伊豆町をフィールドとして、交通費、住居費の負担の実証事業を実施
- 民間企業と連携して首都圏から人を呼び込む体験ツアーを開催



【企画部 企画課】

二地域居住推進事業費（新規） 910万円



”憩い” = relaxation, refreshment

ICOIプロジェクト

— Izu health Care Onsen Innovation Project —

静岡県経済産業部産業革新局
新産業集積課



1

静岡県の温泉の状況

- ・静岡県の源泉数は全国第4位、宿泊施設数は全国第1位
- ・日本で屈指の源泉数を誇り、その9割が伊豆に集中



○ 源泉数

No.	都道府県	源泉数
1	大分県	5,090
2	鹿児島県	2,738
3	北海道	2,229
4	静岡県	2,209
5	熊本県	1,334

○ 宿泊施設数

No.	都道府県	施設数
1	静岡県	2,108
2	長野県	1,002
3	大分道	875
4	北海道	733
5	神奈川県	573

2

伊豆の温泉

- ・源泉数は2000を超え全国でも有数の温泉地
(単純温泉、塩化物泉、硫酸塩泉が主な泉質)
- ・首都圏からのアクセスも良い



東京～熱海：36分
(新幹線ひかり)

東京～下田：2時間17分
(踊り子)

ICOIプロジェクトとは

- ・伊豆の温泉と、自然・歴史・文化・食・運動などの地域資源を組み合わせた新たな価値を創出
- ・住む人や訪れる人が身も心も元気になる伊豆地域を目指す！

<令和5年度> 西伊豆町様

「スポーツ合宿誘致プラン」

アスリートを対象に温泉施設等を活用したトレーニングメニューを開発

<令和6年度> ピジョンホームプロダクツ様

「温泉水を活用した化粧品」

保湿などの美肌効果に優れた熱海の温泉水を使ったハンドクリームを開発



令和7年度の取組

ヘルスケア産業創出支援

伊豆地域で温泉を活用したヘルスケア産業の創出を支援（補助制度）

	事業内容	実施場所
1	スポ×湯(すぽゆ)プロジェクト ー運動して、ととのう坂口屋ー	沼津市
2	森林浴・温泉入浴・健やか御膳による 癒しの健康回復体験プログラム	三島市ほか
3	温泉と運動・アスリート食を組み合わせた スポーツ合宿プラン	沼津市、三島市ほか
4	温泉、サウナカー×アイスバスによる 自律神経調整と幸福ホルモンの可視化	河津町
5	伊豆半島に根差した温泉と健康食等に運動 を組み合わせたウェルネスツーリズムプラン	伊豆の国市

4 温泉、サウナカー×アイスバスによる自律神経調整と幸福ホルモンの可視化プロジェクト↓↓↓



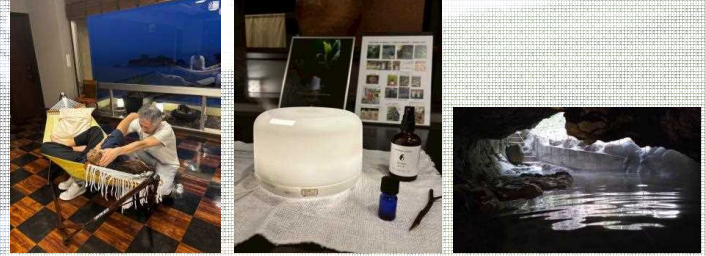
タイとの交流

○タイのヘルスケアコンテンツを取り入れたビジネスモデルの開発

伊豆の温泉や自然、在来ハーブなどの地域資源とタイのヒーリング文化(香り・呼吸・温熱・瞑想・ヨガ)を融合した滞在型リトリートプログラムの開発

▼モニターツアーの様子

(熱川温泉(東伊豆町)&七滝温泉ホテル(河津町))



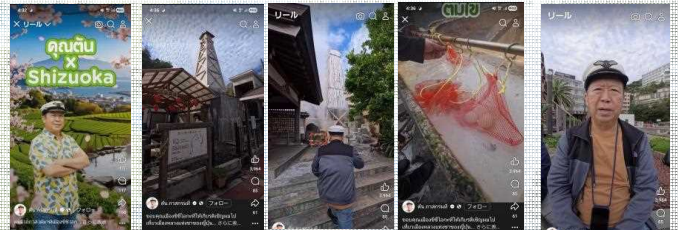
○インフルエンサーによる伊豆地域の魅力発信（観光と連携）

ーIchitan(飲料メーカー)タン社長

フォロワー数1,278万人以上 (Facebook)

ー温泉・地元の食体験をテーマに伊豆の魅力を発信

▼熱川温泉(東伊豆町) 源泉での温泉卵試食&足湯体験



令和8年度の予算案

項目	主な実施内容	事業費
ヘルスケア産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業等で構成する「ICOIフォーラム」(会員:約200名) ・事業化支援コーディネータ2名配置 	15,460千円
温泉旅館オフィス化事業	<ul style="list-style-type: none"> ○温泉旅館オフィス化モデル構築 ・モデル旅館の追加募集&選定(R7:4旅館⇒R8:8旅館) ・R8年度モデル旅館の事業計画策定支援 ・モデル旅館への入居企業マッチング 	16,840千円
	<ul style="list-style-type: none"> ○温泉旅館オフィス入居促進事業費補助金 ・モデル旅館への入居企業が負担する改修費、賃料を補助 改修費:110万円(補助率 1/2) 入居時 賃料:180万円(補助率 1/2) 2年間 	12,000千円
計		44,300千円

※交付金申請の都合により2月補正とした経費はR8当初予算に含む。

R8年度：ヘルスケア産業創出支援(ウェルネスビジネス支援)

○ ICOIプロジェクトの補助金を静岡ウェルネスプロジェクトの補助金へ統合

▼参考:R7年度 ウェルネスビジネス事業促進助成金 チラシ

令和7年度
ウェルネスビジネス事業化促進助成金
申請者募集 公募期間 4月1日(火)～5月9日(金) 17時締切

新たなウェルネスビジネスの創出を支援するため、事業化に向けた取組(可能性調査または実証)を行う中小企業者等に対し、必要な費用を助成します。

補助金額
助成率 【可能性調査】助成対象経費の **3分の2** 以内
助成限度額 【事業化実証】助成対象経費の **2分の1** 以内
【可能性調査】1年間で **100万円** 上限
【事業化実証】1年間で **200万円** 上限
1年間で **500万円** ※上限(※大学等連携案件に限る)

対象事業者 詳細は交付要綱をご確認ください。
・県内中小企業者(中小企業基本法第二条第一項で定めるもの)等及び農林漁業者であってかつ県内に主たる事務所、事業所又は住所を有する者(みなし大企業を除く)
・県外の中小企業者及び農林漁業者であってかつ県内の市町と連携する者(みなし大企業を除く)(事業化実証のみ)
・静岡県税を滞納していない者
・暴力団等の反社会的勢力でないこと、また反社会的勢力との関係を有していないこと

ウェルネスビジネス事業化促進助成金

1.対象事業
1.ウェルネスビジネス事業化可能性調査
新たなウェルネスサービスや製品の事業化を想定したビジネスプランにおいて行う市場調査や効果検証など、事業が成立する可能性を検証
2.ウェルネスビジネス事業化実証
新たなウェルネスサービスや製品の事業化を想定したビジネスプラン証を含む研究開発や販路開拓の取組

過去の採択事例(令和6年度までのヘルスケアビジネス助成金事業)
・スマート端末による咀嚼機能計測アプリの事業可能性調査(令和5年度)
・クラウドファンディングを利用したヘルスケアビジネスの事業化(令和6年度)

2.対象経費
●直接人件費(役員報酬を除く) ●原材料費 ●機材装置購入等経費 ●外注加工費
●技術コンサルティング料 ●委託費 ●その他(調査研究費及び消耗品費で対象事業に
も関係するもの)

3.スケジュール
申請 4月～5月 審査 5月 事業期間 6月～2月 事業完了後 3月

事前相談(※要予約) 5/7 締切
交付申請書類提出 5/9 締切
書類・プレゼン(審査) 5月中旬～5月下旬
助成金交付決定 6月中旬
事業開始 6月中旬
事業完了 11月
事業報告書等提出 1/15(締切)
助成金請求 2/15(締切)

お問合せ・申請先
公益財団法人 静岡県産業振興財団
ウェルネス・フーズ産業支援センター
〒420-0853 静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館2F
TEL: 054-254-4513 FAX: 054-253-0019
E-mail: newfoods@ric-shizuoka.or.jp

ポイント1
補助対象は
県内中小企業等

ポイント2
助成率・助成
上限額がICOI
から変更あり

ポイント3
補助対象経費に
直接人件費あり

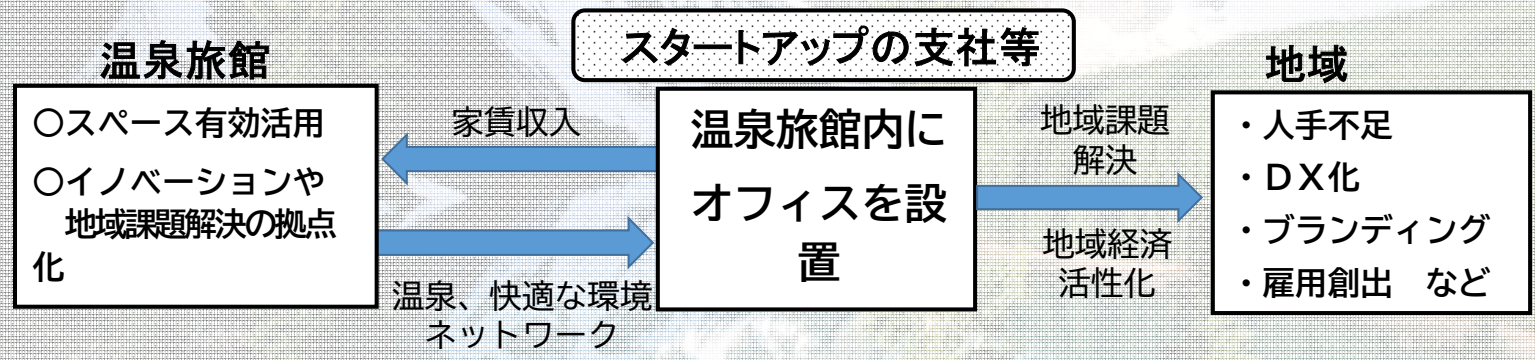
ポイント4
対面での
プレゼン
審査の実施
見込み

ポイント5
R8年度募集
の案件は
事業期間が
～1月末完
了が対象の
見込み

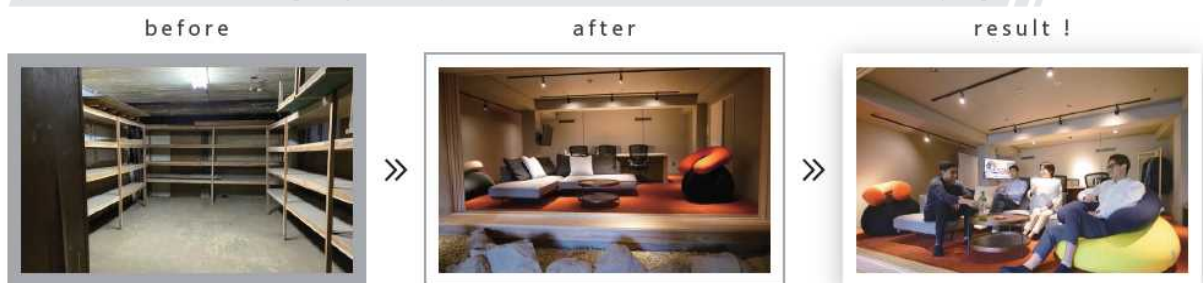
詳細や募集開始はこちらのHPに掲載: <https://www.fsc-shizuoka.com/>

温泉オフィス化事業

- 温泉旅館の大宴会場や乗務員スペースなどの **使われていない空きスペースをオフィスに改修**
- **スタートアップ等の企業を誘致**し、異業種間連携や地元企業・関係団体等との連携により、イノベーションや地域課題の解決につなげる



次代の宿づくりに向けた、「旅館にオフィスをつくる」という提案



先行事例「嬉野温泉 和多屋別荘」

和多屋別荘（佐賀県嬉野市）

2万坪の広大な敷地持ち開業から70年余りの歴史を持つ老舗温泉旅館

(株)イノベーションパートナーズと共同で旅館内に企業のオフィスを開設、スタートアップを誘致



進出企業

- UNLOCK
- cuoncrop
- MISOVATION
- Space SAGA
- Hybrid Factory
- フリーランス シンクタンク
- インナーホスピタリティ コンサルタント
- OWATARI DESIGN
- NAKAGO
- BONJOUR

進出企業

- INNOVATION PARTNERS (2020年4月3日開所)
- LDT株式会社 (2021年6月15日開所)
- AnyMind (2021年9月開所)
- usp lab. (2025年7月開所)
- ENGAWA (2021年9月開所)
- NANO (2021年10月開所)
- JR九州 (2022年10月開所 1年間限定)
- 株式会社リンクスタッフ (2025年3月開所予定)

ICA国際会話学院

R8年度：モデル旅館の追加募集

2025(R7)

- モデルとなる旅館を公募
⇒4旅館を採択
- 事業計画策定
- 入居マッチング
(賀茂管内旅館 計8社程度 視察)
- 企業誘致イベント実施

▼R7年度選定のモデル旅館



2026(R8)

- モデルとなる旅館を追加で公募
 - ・R7:4旅館⇒R8:8旅館
 - ・事業計画策定支援
- 企業誘致
 - ・入居企業の負担する賃料・改修費に対する補助制度を新設
 - ・首都圏において、スタートアップとのマッチングイベントを開催

▼首都圏マッチングイベント(イメージ)



R8年度：改修費やオフィス賃料への補助【新規】

・温泉旅館オフィス入居促進事業費補助金

モデル旅館への入居企業が負担する改修費、賃料を補助

内容	限度額	補助率	対象期間
改修費補助	110万円	1/2	入居当初 初回のみ
賃料補助	180万円/年	1/2	2年間

※詳細は交付要綱、交付要領参照



Thank you for
your attention!

令和8年度当初予算主要事業（観光関連）

事業名	観光関連事業	予算額	R8	216,063 万円	担当課(室)	観光政策課ほか (内線 3617)
			R7	234,900 万円 (9月補正 44,760 万円)		
1 事業目的 しずおか観光の価値向上により、本県の観光産業の稼ぐ力を強化し、観光消費額の拡大を図るため、高付加価値旅行の推進や、観光産業の基盤強化に取り組む。						
2 事業概要 (単位：万円)						
区分	内 容				R8 当初	
インバウンド 推進関連事業 (観光振興課ほか)	・市場の特色や旅行者ニーズに応じた誘客活動の展開				34,388	
観光施設整備 事業費 (観光政策課)	・観光地域の高付加価値化 ・観光施設のバリアフリー化 ほか				110,000	
時流を捉えた 推し旅推進事業費 (観光振興課)	・温泉・サウナ、アニメ、ロケ地等の集客力のあるコンテンツを活用した誘客 ・地域の観光資源を活用した周遊促進の取組への支援 ほか				8,350	
駿河湾フェリー 利活用促進事業費 (観光振興課)	・フェリー運航法人に対する負担金 ・利用促進に向けたプロモーション				15,460	
アクセシブル・ ツーリズム 推進事業費 (観光政策課)	・モデル地域におけるユニバーサル MaaS の実証 ・ユニバーサルツーリズム総合相談窓口の運営				2,000	
そ の 他 (観光政策課・観光振興課)	・環駿河湾地域の周遊促進 ・富士山写真コンテストを活用した魅力発信 ・訪日教育旅行の誘致 ・観光DXの推進、指定管理 ほか				45,865	
計					216,063	
※ 交付金申請の都合により2月補正とした経費は、R8 当初予算に含む						

事業名	インバウンド推進関連事業 (再掲)	予算額	R8	34,388万円	担当課(室)	観光振興課ほか (内線3637)
			R7	36,843万円		

1 事業目的

本県へのインバウンド需要の更なる拡大を図るため、静岡ツーリズムビューロー等と連携し、市場の特色や旅行者ニーズに応じた誘客活動を展開する。

2 事業概要

(単位：万円)

区分	内容	R8当初
インバウンド消費 倍増推進事業費 (新規) (観光振興課・港湾振興課)	ビジネスジェット、スーパーヨットの誘致促進 ・ 空港や港と連携した商品造成 ・ スーパーヨット展示会への出展 ほか ゴルフツーリズムの促進 ・ 県内有名ゴルフ場を核とした商品造成、プロモーション モータースポーツを活用した誘客促進 ・ 関係団体と連携した商品造成、プロモーション ガストロノミーツーリズムの促進 ・ 本県の食の魅力を活かした情報発信	7,000
インバウンド 推進事業費 (観光振興課)	三島駅をハブとしたインバウンド誘客(新規) ・ 河口湖、箱根等からの三島、伊豆地域への周遊促進 スタートアップとの課題解決プログラム ・ 市町等の課題に対するスタートアップとの実証実験 パッケージツアーを造成・販売する現地旅行会社等への 支援 ・ 対象：中国、韓国、台湾、東南アジア ・ 支援額：1,000円/人(最大7,000円/人)	14,450
高付加価値 宿泊施設誘致 推進事業費 (観光政策課)	高級ホテルの誘致推進 ・ ホテル開発事業者等への営業活動 ・ 官民が連携した誘致体制の構築 ほか	500
観光二次交通 高度化事業費 (新規) (空港振興課)	・ 旅行者の動態及びニーズの調査・分析 ・ 分析結果に基づくアクセスの実証運行	4,000
その他 (観光振興課)	・ 県海外駐在員事務所による観光宣伝活動 ・ 静岡ツーリズムビューローの活動支援 ほか	8,438
計		34,388

※ 交付金申請の都合により2月補正とした経費は、R8当初予算に含む

事業名	観光施設整備事業費(再掲)	予算額	R8	110,000万円	担当課(室)	観光政策課 (内線2534)
			R7	110,000万円		

1 事業目的

旅行者の周遊・滞在を促し、消費拡大、地域の観光産業の活性化を図るため、市町や観光事業者等が一体となって実施する、宿泊・観光施設の高付加価値化に対して助成するとともに、県有観光施設の整備等を行う。

2 事業概要

(単位：万円)

区分	内容	R8当初
観光地域の高付加価値化事業(新規)	<p>インバウンド向け施設改修、リノベーションに対する助成(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助先：市町・観光事業者 ・補助率：1/2 (県 1/3、市町 1/6) ・対象：市町が策定する計画に位置づけられた宿泊・観光施設の改修 ほか <p>市町等の観光施設整備に対する助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助先：市町 ・補助率：1/2、1/3、1/4 ・対象：市町が策定する計画に位置づけられた観光施設の整備 	40,600
観光施設バリアフリー化促進事業	<p>観光施設のバリアフリー化に対する助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助先：市町 → 観光事業者 ・補助率：1/2 ・対象：市町が策定する計画に位置づけられた観光施設のバリアフリー化改修 	7,700
宿泊業の経営力基盤強化事業	<p>宿泊事業者が行う人手不足対策に対する助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助先：宿泊事業者 ・補助率：1/4 (市町が補助する額と同額以内) ・対象：業務効率化・生産性向上に向けた取組、社員寮の更新・改修 	5,300
県有観光施設整備	<p>県有観光施設の整備及び管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山小屋の改修 (小河内岳避難小屋、光岳山小屋等) ・猪之頭公園公衆トイレ改築 ・自然歩道の整備、維持補修 ほか 	56,400
計		110,000

地域づくり人材を活用した 介護人材確保モデル事業について

令和8年3月25日

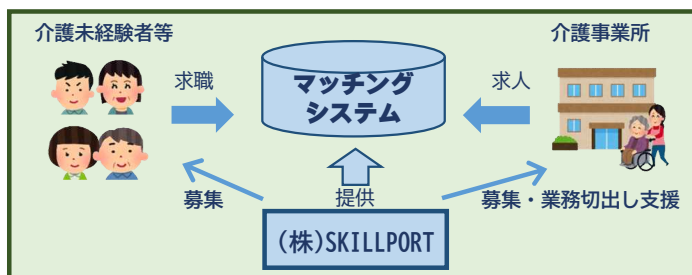
静岡県健康福祉部介護保険課

地域づくり人材を活用した介護人材確保モデル事業

介護人材等の確保が特に困難な賀茂地域において、介護分野への多様な人材層の参入を促進するため、介護未経験者と介護事業所のマッチングを行うとともに、地域における業種横断型の人材確保の仕組みの構築を支援し、賀茂地域の介護人材の確保を図る。

介護未経験者等マッチング機能強化モデル事業

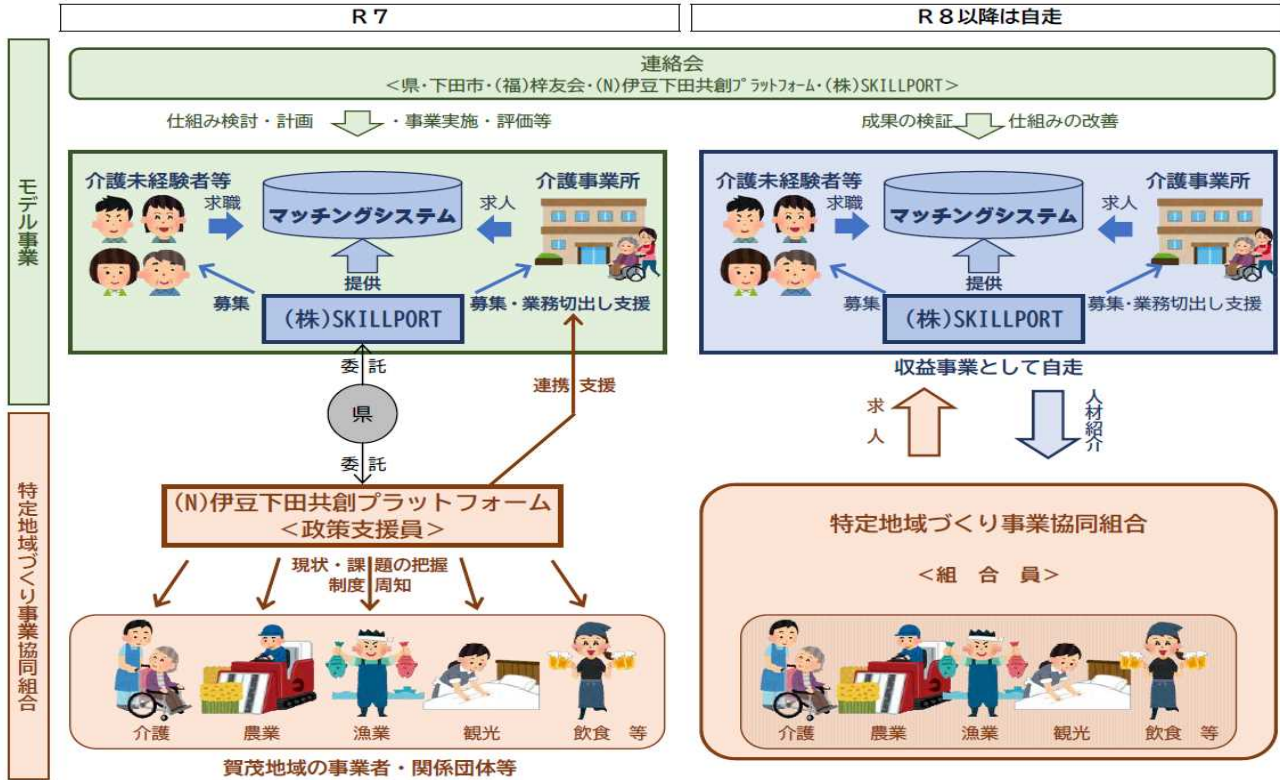
介護未経験者等と介護事業所のマッチング機能を構築する。



特定地域づくり事業協同組合制度の活用

特定地域づくり事業協同組合制度の普及・啓発を行う。





3

介護未経験者等マッチング機能強化モデル事業

1. 目的

介護分野への多様な人材層の参入を促進するため、介護事業所における新たな人材確保の仕組みを構築し、**介護未経験者等※と短期・短時間の業務とのマッチングを行う**

2. 概要

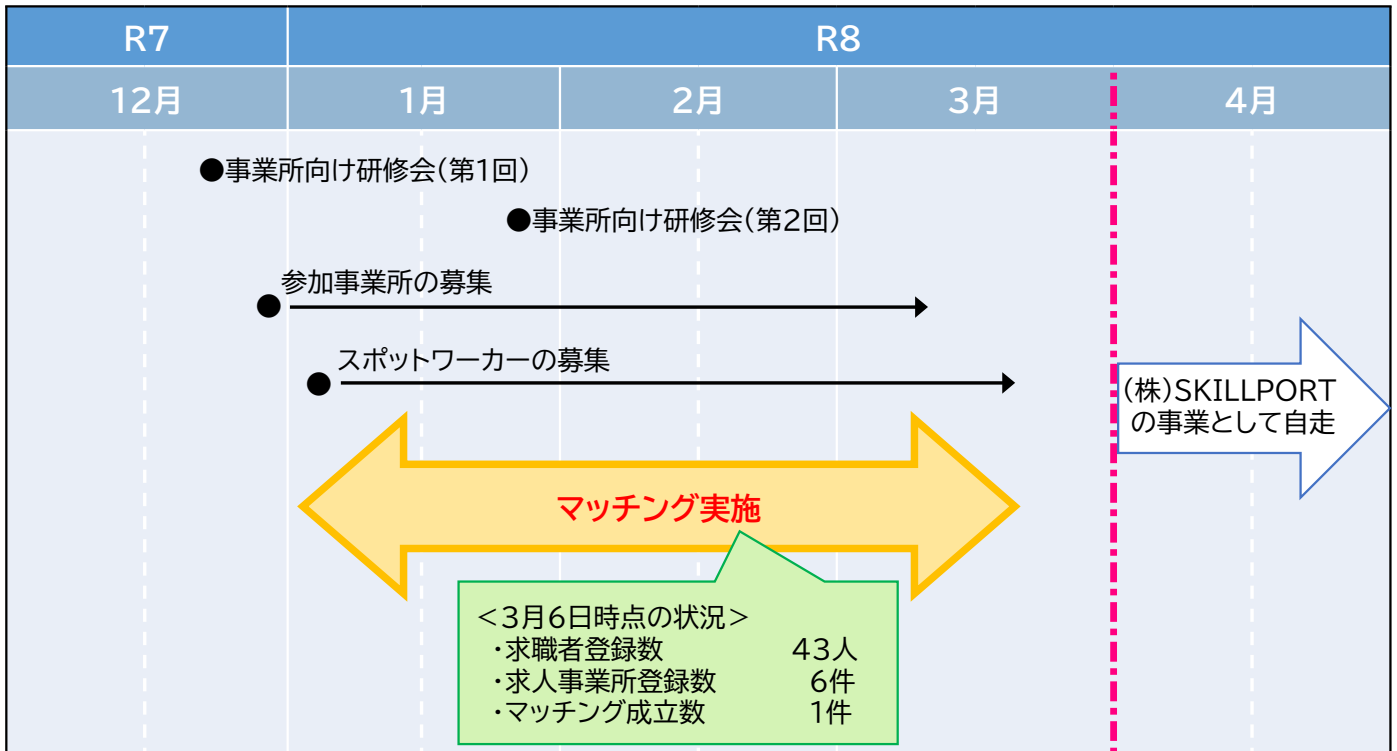
賀茂地域をモデル地域に選定し、地域の事業者等と連携し、介護未経験者が行うことのできる介護現場の**周辺業務を切り出した上で、マッチングを行う**

マッチングを行うにあたり、株式会社SKILLPORTの「SKILLPORT WAVE」を活用して、介護未経験者等※の**心理的ハードルを下げる**

※介護未経験者等とは介護事業所での勤務経験のない方や、介護の資格を持っていない方、勤務経験や資格は有しているが、現在介護事業所で勤務していない方を想定

モデル構築	委託先	株式会社SKILLPORT <代表取締役社長 藤井 敬久 氏> ・下田市東本郷にある有料職業紹介事業所 ・地域密着型の求人マッチングサービスを提供
	業務内容	希望事業所の募集・業務の切り出し支援、介護未経験者の募集・マッチング 等
	マッチング対象者	スポットワーク人材(副業希望者、主婦・主夫、シニア層等)、移住者、二地域居住者 等

4



特定地域づくり事業協同組合制度の活用

「過疎地域へのイノベーション導入事業費(県地域振興課 所管事業)」と連携し、特定地域づくり事業協同組合制度を活用した業種横断型の人材確保の仕組みを構築する。

過疎地域へのイノベーション導入事業費

「過疎地域等政策支援員」を希望する市町に派遣し、過疎地域における外部人材と革新的技術の活用を支援する



賀茂地域の实情に精通し、かつ特定地域づくり事業協同組合に関する知識を有する者を、静岡県過疎地域等政策支援員として委嘱し、特定地域づくり事業協同組合制度の普及・啓発を行う。

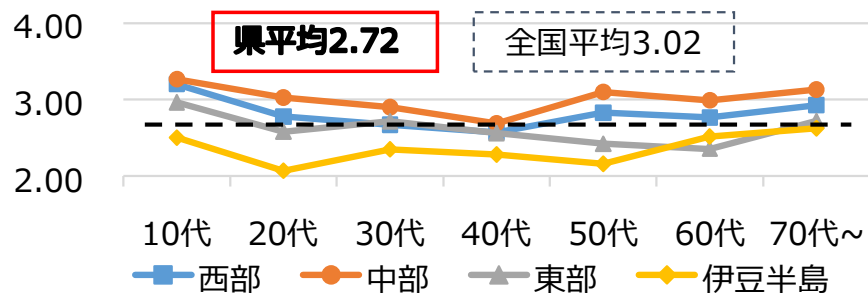
委託先	NPO法人伊豆下田共創プラットフォーム<理事長 浜岡 孝 氏> ・賀茂地域の振興等への寄与を目的とするNPO法人 ・活動分野は、保健・医療・福祉のほか、社会教育、まちづくり、観光、農山漁村・中山間地域振興など
支援員	野崎 晃 氏(委託先法人事務局長)
業務内容	地域住民、事業者及び市町等と連携し、以下の業務を行う。 ・現状・課題の把握 ・制度周知 ・組合設立の検討の場の企画・運営



移動・交通 — 地域公共交通のリ・デザイン —

主観指標

Q 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動できる



<県内乗合バスの推移>

区分	運行路線		伸び率 (%)
	2013	2023	
事業者	1,675	1,324	△21.0
市町自主運行	288	412	+43.1
計	1,963	1,736	△11.6

分析

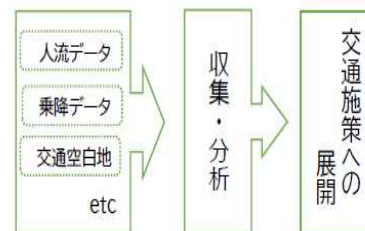
- 静岡県の移動・交通分野の数値は、年代、地域を問わず満足度が低い
- 乗合バス路線の全体数は減っているが、市町自主運行バスの割合は増加しており、公の負担が増える傾向
- 移動の確保は生活の満足度につながるが、バスなどの路線維持は、困難になりつつある

政策立案

- 乗降データ等の分析に基づく交通施策を展開
- 市町の圏域を超えた広域共同運行による公共ライドシェア等の展開を支援
- 自動運転を実装するため、国補助に県単独で上乗せ補助する集中支援を行い、全県に展開

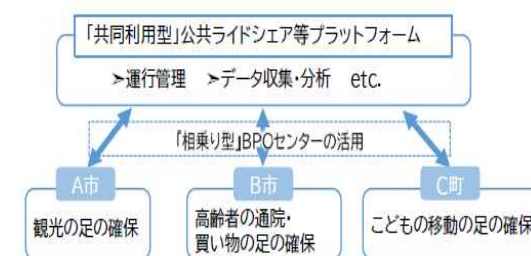
○データに基づく交通分析

人流データや交通事業者が所有するデータ等を分析し、県内交通の最適な役割分担を整理



○公共ライドシェア等共同運行管理

公共ライドシェア等の実施に必須となる運行管理について、民間のノウハウを活用し、市町が共同で利用できるプラットフォームを構築



○自動運転実装化支援

自動運転バスの早期の社会実装を目指し、先進自治体の実証実験を財政面から支援

- R8は新富士駅～富士駅間で実証実験を行う富士市を支援
- ロールモデルとして県内各地域で自動運転サービスを展開



▲自動運転バス (イメージ)



▲路車協調システム (イメージ)

【交通基盤部 地域交通課ほか】

地域公共交通「静岡リ・デザイン」推進事業費 (新規)
9,300万円 [2月補正含む]

事業名	地域公共交通「静岡リ・デザイン」推進事業費(新規)	予算額	R8	5,900万円	担当課(室)	R8	建設政策課 (内線 3396) 交通政策課
			R7	－万円 (2月補正 3,400万円)		R7	建設政策課 (内線 3396) 地域交通課 (内線 2852)
<p>1 事業目的 公共ライドシェア等の全県展開による交通空白の解消のため、乗降データ等を活用して最適な地域公共交通の再構築（リ・デザイン）を行う。</p> <p>2 事業概要 (単位：万円)</p>							
区分	内 容		R8 当初				
地域公共交通のリ・デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・人流データ等の分析・活用 ・ドライバーバンクの設置 公共ライドシェア運転手情報のデータベース化（広域利用） ・市町支援（立上げ支援） 補助率：1/2 補助上限：150万円 補助対象：保険料 ほか ・自動運転実装支援 		3,900 (R7.2月補正) 1,400				
公共ライドシェア等広域共同運行管理の推進	複数の市町が共同利用できるシステムを構築し、運行管理を効率化		(R7.2月補正) 2,000				
地域交通人流データの取得	人流データを取得し、交通政策の検討に活用 ・県内 35 市町分		2,000				
		計	5,900 (R7.2月補正) 3,400				